

# 人気1位は本学愛車



津田沼キャンパス1号館1階に常設展示されている1931年製A型フォードが11月26日、東京都新宿区の明治神宮外苑で開催されたトヨタ博物館主催のクラシックカーフェスティバルに出場。ゼッケンナンバー①を付けてパレードの先頭に立ちII写真、来場者による人気投票で1位を獲得した。

# NEWS CIT

2016  
12.15  
ニュースシーアイティ

千葉工業大学・入試広報部  
〒275-0016 千葉県習志野市津田沼  
2丁目17番1号  
TEL 047(478)0222 FAX 047(478)3344

<http://www.it-chiba.ac.jp/>

毎月1回(8月を除く)15日発行

## ニュースガイド

- 2面 学生建築コンペで院生5人活躍/潤間さん学生賞/29年度AO・推薦入試終了
- 3面 ジェットスポーツの小原さん卒業へ/西村さんポスター賞/モンゴルで放球再び/ロボグランプリで古田審査委員長講演
- 4面 「ロボパ」福岡市で開催/地盤改良技術、小宮学長と三信建設工業が製品化/FDフォーラム
- 5面 長尾研がスウェーデン学生らと交流/本学で水処理生物学会/袖団シェアールーム公開/ひまわり保育園と天文研究部「星空教室」
- 6面 第67回津田沼祭/クラブの活動状況

## A型フォード 神宮外苑クラシックカー祭を走る

＊ A型フォード 有名なT型フォードの後継車。1927〜31年に485万台が生産され、日本でも横浜にあった工場が生産された。本学が保存している車両は、故平田光寿名誉教授(昭和33年電気工学科卒)が、卒業を機に自動車部に寄贈したもの。昭和40年代までは種々の学内行事に登場していたが、傷みが激しくなり、50年代からは車庫に保管されていた。平成24年、創部70周年を機にOBと現役学生がプロジェクトチームを組んで再生。25年11月には、来校したダライ・ラマ法王14世を歓迎し、助手席に乗せて津田沼キャンパス内を走ったII写真下。



整備と運転を受け持ったOBと在学生

### 「千葉工大の勢い象徴！」

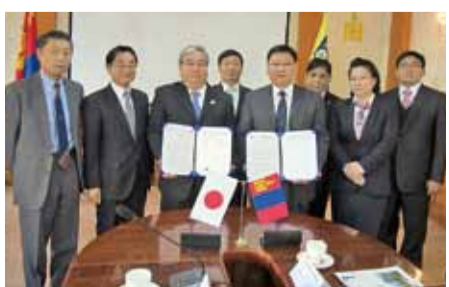
本学はこの春、創立以来最多の7万8457人の入学志願者を集めた。また一般入試の志願者増加数は昨年度比2万5607人と全国の大学のトップに立った。そんな年を締めくくるかのようなA型フォードの1番づくしに「今の千葉工大の勢いを象徴しているよ」という声も――。

今年、10回目を迎えたクラシックカーフェスティバルには1986年以前に生産された国内外の名車約100台が出場したが、大半は60〜80年代製の30年代製は3台だけ。中でも最も古い本学のA型フォードにゼッケンナンバー①が付けられた。イベントの前



日、A型フォードは体育会自動車部OB会幹事長の熊木健司さん(昭和47年工業経営学科卒)ら先輩と現役部員の手で1号館から搬送用トラックに載せられ、当日の朝、会場の神宮外苑聖徳記念絵画館前へ運ばれた。雲一つない快晴の下、全参加車のパレードの先頭でA型フォードのハンドルを握ったのは、自動車部OBの辻崎幸雄さん(49年機械工学科卒)。「さあ、スタート！」という直前、エンジンが切られて、同じOBの町田洋さん(42年機械工学科卒)が車の前方に。その手にはクラシック棒が握られている。これを使って、今は見ることでできなくなった手回しでエンジンを起動させるパフォーマンスをしようというのだ。

2 大学と交流協定  
モンゴル科技大、タイグエン大  
小宮一仁学長は松井孝典感星探査研究センター所長らとともに11月22日、モンゴルの首都ウランバートルのモンゴル科学技術大(国立)へII写真、25日にはベトナム東部タイグエン省省都タイグエン市のタイグエン大(同)を訪問し、両大学と海外研修などに関する交流協定を締結した。本学が交流協定を結んだ海外大学はこれで16カ国・地域、33大学となった。



## 大木、光に彩られ

新習志野 食堂棟前広場に新シンボル

新習志野キャンパス・イモドキまたはセコイア(メスキ)で、米国西海岸に、樹形の美しい大木が原産のスギ科の常緑樹。再開発が進む新習志野キャンパスの新しいシンボルに、と植えられた。樹高世界一で知られ、高さ110mを超すことも。12月12日からはクリスマスイルミネーション(電飾7千球、ボールライト37球)で彩られた。



学生支援イベントの一つとして企画されたもので、募集に応じた学生たちが試行錯誤しながらデザインを決め、足元の芝生にも電飾を施した。冷える師走に出現した巨大なクリスマスツリーと、芝生を彩るテーマパークのようなイルミネーションが学生・教職員たちの心を温めている。点灯は毎日午後4時半〜11時。後期授業が終了する1月30日まで点灯を続ける予定。

車検を取っていないため青山や銀座など都心の公道走行には参加できなかったが、大勢の観客を魅了し「千葉工大」の名も強く印象づけたようだ。展示スペースに戻ったA型フォードの側にはスクールカラーの紫紺の自動車部旗が立てられ、その前で記念撮影する参加者も見られた。フェスティバルには、OBのほか現役の自動車部員3人も参加した。

# 学生建築コンペ 院生5人活躍

## 高橋由寛、沙織さん準グランプリ

▼「街の中の街のすきまの家」  
 1件目は毎日新聞社主 インコンテスト（ヒノキ  
 催の第2回学生住宅デザ ヤグループ共催、国土交



建築都市環境学専攻の5人。(前列左から)高橋沙織さん、高橋由寛さん、秋山怜央さん、(後列左から)川合豊さん、嶋田緒音さん

▼「街の中の街のすきまの家」  
 1件目は毎日新聞社主 インコンテスト（ヒノキ  
 催の第2回学生住宅デザ ヤグループ共催、国土交

通省・林野庁後援)で、  
 募集テーマは、50坪(約  
 165平方メートル)以内の敷  
 地に癒しの空間をデザイン  
 する「都市  
 のくつろげる  
 家」。



下空間・縁側・庭など  
 「街のすき間」があり、  
 安らげる空間を生んでき  
 たと捉えた。現代の都市  
 では建物がせめぎ合い、  
 窓を開ければ目の前を隣  
 家の壁がふさぐ。家々に  
 街のすき間を取り戻せ  
 ば、くつろげるのではな  
 いか。」  
 長屋型の細長い敷地を  
 想定。上に広げ3階建て  
 にすることで軒下・縁側  
 ・庭などの「すき間」要  
 素を取り入れ、植物園が  
 あり、日向ぼっこもでき  
 る家を提示した。時間が  
 ない中、1回1回の話し  
 合いを濃いものにしよう  
 と案を出し合ったとい  
 う。

### 秋山、高橋由、川合、嶋田さん受賞

授)ら審査員5人が2次  
 にわたって提案の独自性  
 や環境への配慮、木材の  
 生かし方も加えて審査し  
 た結果、準グランプリに  
 選ばれた。審査員の1人  
 は「長屋の内部を立体的  
 に構成することで、すき  
 間を作り出している。緻  
 密に考えられた案」と講  
 評した。  
 高橋さんらは受賞コメ  
 ントで「開放的でくつろ  
 げる家とは、プライバシー  
 を守りながらも内外が  
 つながっている家だと考  
 えました」と答え、「こ  
 んなに良い賞をもらえる  
 と思っていなかったの  
 で、うれしい。(グラン  
 プリは逃がし)次に機会  
 があれば頑張りたい」と  
 語った。  
 新プロムナードを積み上  
 げた。  
 各階の人の動きが透け  
 て見え、夜は柔らかな光  
 が漏れ出して、まるで五  
 重塔か舞台のよう。  
 「アーキファニチャー  
 (建築兼家具)」の概念  
 を設計に発展させて展開  
 したという。浅草っぽさ  
 を残しながらも新しいシ  
 ンボルになるようにと願  
 った。  
 3件目は、建築系学生  
 のために企業・団体が設  
 立した全日本学生建築コ  
 ンペ(すそ)が飛びだし、各  
 壁が内部、外部、半外部  
 の3つの機能に添う。内  
 の生活機能が半外部を通  
 じて、外の都市空間に緩  
 やかに漏れだす……その  
 な流れをシンプルな壁の  
 形態操作で作りに出した。  
 上記2件の代表役とな  
 った秋山さんは、1件目  
 を「考えてきたことをフ  
 レゼンする機会を与えて  
 いただき感謝していま  
 す。この経験を建築設計  
 の場で生かしていきたい  
 い。」  
 2件目には「自分たち  
 の作品が表現されること  
 はとても光栄です。建築  
 の知識を深め、さらに良  
 い物へと発展できるように  
 全力を尽くします」と  
 感想を述べた。

### 潤間さん学生賞

▼ ナノスケールでダイオード動作観測

電気学会の「第19回電  
 気機械システム国際会議  
 (ICEMSSO16)」  
 (11月13~16日、アパホ  
 テル&リゾート東京ベイ  
 幕張(開催)で、潤間威  
 史さん(電気電子情報工  
 学専攻修士2年・佐藤宣  
 夫研究室II写真)が英  
 語でポスター発表し、  
 Electrical Science and  
 Engineering Promotion  
 Student Paper Award(電  
 気科学技術奨励学生賞)  
 を受賞した。



発表したのは「走査型  
 プローブ顕微鏡によるSi  
 製ショットキーバリアア  
 イオード面の潜在空乏層  
 の研究」。  
 ショットキーバリアア  
 イオードは、金属と半導  
 体の接触時に生じる整流  
 作用(電流を一定方向に  
 しか流さない作用)を生  
 じさせるショットキー障  
 壁(電氣的障壁)を利用  
 したダイオード。スイッ  
 チング速度が速い半面、  
 均一特性の生産や制御が  
 難しい。  
 潤間さんは表面をナノ  
 スケールで観測。ダイオ  
 ードの動作に必須の空乏  
 層(ショットキー障壁を  
 生じさせる電子の拡散  
 層)と金属・半導体の接  
 合位置の詳細な計測に成  
 功した。  
 観測には市販ダイオー  
 ドを、測定面がむき出し  
 になるようナノスケール  
 で研磨し平らにする必要  
 があった。  
 562人が発表し、受  
 賞は8人という狭き門た  
 った。  
 潤間さんは「発表内容  
 が国際会議のメインから  
 多少ずれ、賞を頂けると  
 は思ってもいませんでした。  
 私のテーマも世の中  
 に必要とされているのだ  
 と再確認でき、励みにな  
 りました」と感想を述べ  
 た。

### 29年度AO・推薦入試終了

平成29年度AO・推薦  
 入学試験が、11月13日に  
 行われた指定校推薦入  
 学試験を最後に、全日程  
 を終了した。  
 9月から11月にかけて  
 行われた指定校推薦入  
 学試験▽AO創造入学試験▽公  
 募制推薦入学試験▽専門



秋山怜央さん(修士2年・遠藤研究室)▽高橋由寛さん(同)▽川合豊さん(修士1年・今村創平研究室)▽嶋田緒音さん(修士1年・遠藤研究室) — の4人で「浅草



高校推薦入学試験▽指定  
 校推薦入学試験▽帰国  
 生徒推薦入学試験(指定  
 校制)▽特別入学試験  
 (外国人留学生・帰国生  
 徒・社会人) — と、順  
 次行ってきた。志願者数  
 の合計は1545人。  
 また、編入学試験、指  
 定校制(高等専門学校編  
 入学試験を11月12日に行  
 い、今年43人が志願し  
 た。

# ジェットスポーツの SAMURAI

## 小原聡将さん 卒業へ

2013年に機械サイエンス学科に入学したころは「世界最年少のジェットスポーツ・プロライダー」と注目され、海外では「SAMURAI」と呼ばれていた。来春卒業を控えた今、「ジェットスポーツ時ににおけるマシンの運動特性およびライダーの運動生理学的負荷特性に関する研究」という卒業研究に、所属する引原有輝研究室に泊まり込みで打ち込んでいた。

「今年はいままででも最も結果を残せた年だった」と、世界チャンピオンを狙う決心だ。

クラスで世界4位。「アトシってこんなに速かったんだ！」と海外でもすごく評価が上がりました。

その評価を背負って、卒業後の来年1年間はレースに集中し、今度こそ世界チャンピオンを狙う決心だ。

なスポーツに育てるようなことをやっていきたい。例えばジュニアを育成する環境を作るとか、トレーニング方法をグレイドアップするとか。僕の卒業研究の目的の一つはそこにあるんです。

中にメドをつけたいと泊まり込みを続けながら、12月1日から5日までタイに飛び、パタヤビーチで開催された世界選手権に出場してきた。結果は2位だったが、「SAMURAI」ぶりは十分に発揮してきたようだ。

集を行うためのこの気球は直径約190センチのゴム製。ヘリウムガスを詰め、宇宙塵探集器のほか環境計測機や通信機などを吊り下げて成層圏まで上昇させる。気圧の低下で気球が膨張・破裂すると、パラシュートで地上に降下した機器類を回収する。

大規模実験態勢へ「成層圏シンボ」も6月にモンゴルで始まった一連の放球実験は、同国の私立大学である工業技術大学と共同で行われているが、国立の科学技術大学も強い関心をもっており、11月の実験にはオブザーバーとして加わった。

## 準世界チャンピオンに 結果残した大学生活



学生生活を振り返って——小原さん

た」と振り返る。10月に米アリゾナ州で開かれた世界選手権「IJSBA ジェットスポーツワールドファイナル」のプログレスキーという最高峰のレースで、自己最高位の2位に入った。名実ともにジェットスポーツの「世界で2番目に速い男」だ。

これまでの国内と米国をはじめタイ、マレーシア、フィリピンなど海外のレースに出場しながら大学に通う生活。加えて遠征費を稼ぐために宅配ピザ店でのアルバイトにも精を出した。

「レースに専念できるようにになったら、これまでで参戦できなかった欧州のレースにも挑戦したい。そして自分がジェットスポーツの世界でどこ

秋山演亮(あきやまのぶ)主席研究員をプロジェクトリーダーとする惑星探査研究センター(PERRC)のチームは11月19、20日の2日間、モンゴルの首都ウランバートルの東約60キロのテレルシで、今年6月に続いて2度目の簡易型気球の放球実験を行った。

成層圏での宇宙塵探集を行うためのこの気球は直径約190センチのゴム製。ヘリウムガスを詰め、宇宙塵探集器のほか環境計測機や通信機などを吊り下げて成層圏まで上昇させる。気圧の低下で気球が膨張・破裂すると、パラシュートで地上に降下した機器類を回収する。

19日の放球実験は、高度28キロの低温・低圧下での探集器の開閉などの動作チェックが目的だったが、高度23キロで破裂。機器類を回収した。

秋山主席研究員は「気温セ氏マイナス50度で機器が正常に作動し、集塵器の密閉性が保たれていることが確認できたので実験は成功」と評価している。

## 西村さんポスター賞

### ▼世界初 ジルカロイの表面張力データ取得

第11回アジア微小重力シンポジウム(10月25〜29日、札幌市の北海道大で開催)で大学院・機械サイエンス専攻の西村

大さん(修士2年・小澤俊平研究室)が「電磁浮遊法による溶融ジルカロイの表面張力測定」を英語でポスター発表し、

Notable Poster Awardを受賞した。福島第一原発のメルトダウン事故の処理などのため、燃料溶融挙動の数値シミュレーションが行われている。正確に行うには溶融物の溶融・凝固・流動挙動に影響する表面張力データが必要だ。

西村さんらは、試験を空中に浮遊させたまま表面張力を測定できる電磁浮遊技術を使い、日本原子力研究開発機構に提供してもらったジルカロイ

審査はシンポジウムの委員と宇宙飛行士の毛利衛さんによって行われた。

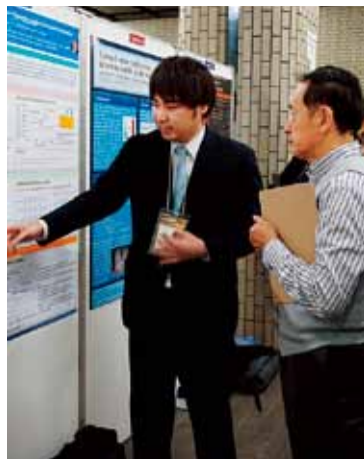
西村さんは「学生最後の学会発表で、このような賞を頂くことができると本当にうれしいです」と語った。

を応援しようと、今年3月に創設された「TEP IA チャレンジ助成事業」に応募して選ばれた

段掃除ロボット「のぼりんバ」。準グランプリ賞は大阪・追手門学院大手中高校の中学生が作った木登り枝打ちロボットなど、どれもアイデアを練り、メカニズムに工夫を凝らした力作ぞろい。

古田所長はこの「未来のロボット博士」たちにfuroが開発した数々のロボットや、文科省とともにfuroが事務局を務める「ユニバーサル未来社会推進協議会」の

「技術は大事だが、もっと大事なものはその技術を使って何をやるか。私はロボット技術を使って新たな文化を独創しているのです。皆さん、私と一緒に未来を作ってください」



毛利宇宙飛行士(右)にポスターを説明する西村さん

だが、燃料被覆管に使われているジルカロイ(ジルコニウム合金)核分裂反応の熱中性子を吸収しにくく外に漏らさな

この表面張力はまだ測定されておらず、主成分のジルコニウムの表面張力さえも正確なデータが得られていない。これらの材料の融点は非常に高く、測定中に測定器具と試料が化学反応してしまうためだ。

西村さんは「学生最後の学会発表で、このような賞を頂くことができると本当にうれしいです」と語った。



## ロボットで未来創造を

### ▼ロボグランプリで古田審査委員長

高度技術社会推進協会(TEPIA)が募集した中高生手づくりのロボットのコンテスト「TEPIAロボットグランプリ2016」で、未来ロボット技術研究センター(furo)の古田貴之(ふらの)所長が審査委員長を務めた。

中高生のロボット開発のは京都・洛星高校の階

を務める「ユニバーサル未来社会推進協議会」の

「技術は大事だが、もっと大事なものはその技術を使って何をやるか。私はロボット技術を使って新たな文化を独創しているのです。皆さん、私と一緒に未来を作ってください」



簡易型気球の放球実験の準備をするPERRCチーム

秋山主席研究員は「気温セ氏マイナス50度で機器が正常に作動し、集塵器の密閉性が保たれていることが確認できたので実験は成功」と評価している。

20日の放球は日本テレビ系「所さんの目がテン!」の番組制作にPERRCが全面協力したもので、気球は33キロまで上昇。併せて山梨大と協力して気球と地上との双方向通信実験を行い、成功した。

地中に細いパイプを挿し、セメントミルクなどを高圧噴射して土と混合、地盤を改良するジェットグラウト工法について、本学産官学連携協議会会員企業の三信建設工業(株)(本社・東京都台東区柳橋)と小宮一仁学長(建築都市環境学科教授)は、精度よく改良体を構築できる「マルチファン工法」を開発。新工法は11月24、25日、ベトナムで開かれた国際見本市「ジオテク・ハノイ」



④飯岡研修センター跡地で行われた大規模実証実験

⑤ジオテク・ハノイで紹介された新工法と、会場を訪れた小宮学長(中央)

④飯岡研修センター跡地で行われた大規模実証実験  
⑤ジオテク・ハノイで紹介された新工法と、会場を訪れた小宮学長(中央)の飯岡研修センター

# 地盤改良 産学で製品化

▼小宮学長と三信建設工業、実証実験に成功

(Geotec Hanoi 2016) 機構共催)で各国官公米国土木学会、国際協力 行、建設関連企業から注目を浴びた。

地盤中に強度や止水性の高い改良体を構築するジェットグラウト工法は日本生まれの技術で、世界各国が採用。液状化防止でも期待されている。

しかし、高圧のままジェット流を地中で回転させるため改良体は円柱状になり、壁状に構築するには円柱状の改良体をつなげていく必要があった。

三信建設工業と小宮学長は、ジェットの切削力・回転周期や噴射角度をきめ細かく制御し、細長い壁状(扇形を組み合わせた多扇形)の改良体を地中に構築する新工法を開発。本学の飯岡研修センター

跡地(千葉県旭市)で実証実験を行った。実験では幅13m、長さ28mの範囲に施工し、施工後この範囲を深さ3mまで掘り返して構築された改良体の形状や強度などを確認。その結果、改良体が設計通りの形で精度よく構築できることが実証された。

新工法は従来工法と比べ、硬化材や排泥液の処理量を大幅に減らし、造成時間を短縮。工費、工期とも圧縮できる。

この成果は国内外の論文に発表。三信建設工業は9月から、高圧噴射「マルチファン工法」として販売を始めている。



▲全方位移動型電動車イスを説明する



⑥ILY・Aを説明する古田所長たち  
⑦Halimexの子どもたちは興味津々

# 「ロボパ！」福岡で満席

▼災害対応などロボット5機 目輝かせる子どもたち

ロボットにさわって、学ぼう。未来ロボット技術研究センター(fuRo)の古田貴之所長が最先端ロボットの魅力を分けて、10月の長野市、仙台市に

「ロボパ！」はロボットパークを略した名称。

この日「出演」したのは災害対応ロボットの「櫻巻號」「櫻武號」、未

来のロボットヒークル「Halimex」(ハルクツィー・カイ)、パーソナルモビリティ「ILY・A(アイリーエー)」、そして「全方位移動型電動車イス」。この5機がそろって関門海峡を渡ったのはこれが初めて。

会場のTKPガーデンシティ博多新幹線口は、11月8日の大規模陥没事故現場とは博多駅を挟んでちょうど反対側。また4月の熊本地震による災害も九州の人たちの記憶に生々しく残っている。

そこで古田所長は、熊本地震で倒壊寸前になった宇土市役所庁舎の内部

「ロボパ！」が11月27日、福岡市で開かれた。約240人が参加して大盛況だった。

続く3回目の開催となるが、当日は満席となる。約240人が参加して大盛況だった。

検証に「櫻巻號」が活躍したことを紹介し、「私が今にも潰れそうな宇土市役所に行って、櫻巻號で建物内部の様子を徹底的に調べたのは、地震で困っている皆さんを助けたかったから。ロボット

の役割は人の役に立つこと。私たちがこれからの人の役に立つロボットを作り続けていきます」と話すと、大きな拍手が湧いた。

講演後の実演では、「Halimex」のユーモラスな動きや、「櫻巻號」が進みながらカメラ

で撮影した画像がリアルタイムでスクリーンに映し出されるのを見て、子どもたちは目を輝かせ、「すごい！」と驚きの声を上げた。

# 「教職協働」着実に前進

▼FDフォーラム 出席3割増

本学の教育活動の一層の活性化と、教員・職員相互の自由闊達な意見交換の場を目指す本年度の「FDフォーラム」が11月22日、津田沼校舎2号館で開かれた。

2013年に前年までの「学部教育シンポジウム」を発展的に見直しと名称変更してから4回目。出席者は昨年より3割増え、小宮一仁学長が

主催する「教職協働」が着実に前進していることを示していた。

3階大教室で行われた第一部では、大川茂樹副学長のあいさつの後、教育工学と学習支援システムが専門の情報ネットワーク学科の仲林清教授が「学び方を学ぶ授業例ー本学学生の学びに対する意識の変化」と題して講演した。本学教員が講師を務めるのは初めて。

「FDフォーラム」が11月22日、津田沼校舎2号館で開かれた。

2013年に前年までの「学部教育シンポジウム」を発展的に見直しと名称変更してから4回目。出席者は昨年より3割増え、小宮一仁学長が主催する「教職協働」が着実に前進していることを示していた。

3階大教室で行われた第一部では、大川茂樹副学長のあいさつの後、教育工学と学習支援システムが専門の情報ネットワーク学科の仲林清教授が「学び方を学ぶ授業例ー本学学生の学びに対する意識の変化」と題して講演した。本学教員が講師を務めるのは初めて。

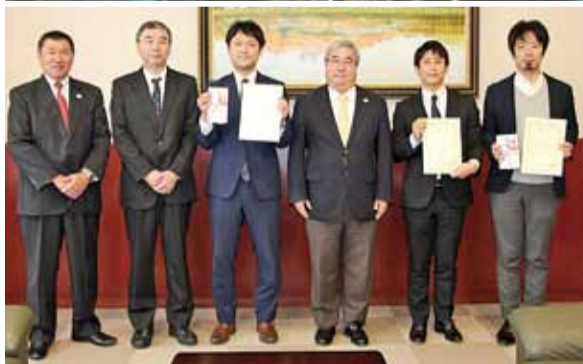
講演後の質疑では、異なる学科の授業への自己調整学習の導入方法について仲林教授にアドバイスを求めるなど、熱心な質問が出た。

続いて2階1〜4会議室で行われたポスターセッションには、教員から13件と自己点検委員会1件、FD委員会2件の合わせて16件の研究発表が展示され、それぞれの

仕方とを対比させることで、自分の勉強経験が現在にどうつながっているかを考えさせることが大切だと語った。

講演後の質疑では、異なる学科の授業への自己調整学習の導入方法について仲林教授にアドバイスを求めるなど、熱心な質問が出た。

続いて2階1〜4会議室で行われたポスターセッションには、教員から13件と自己点検委員会1件、FD委員会2件の合わせて16件の研究発表が展示され、それぞれの



④FDフォーラム講演会場  
⑤表彰された教職員たち

▽稲坂晃義助教(デザイン科学科) デザイン導入教育における新たな試みの実践、「繰り返し」と「振り返り」による学習効果の向上」  
▽田隈広紀助教(プロジェクトマネジメント学科) 応用力獲得に向けたICEループリックに基づく3コマ完結型講義の開発  
長尾徹FD委員長の話 来年4月からSDが法制化されます。その中でFD委員会としてはFDフォーラムや来年2月のFD講演会などを通じて、いま大学と教職員が置かれている状況についての情報を共有することに、まず注力したいと考えています。

# スウェーデン流「FIKA」いかが？

## 長尾研計画 両国学生が交流

日本のお茶文化とスウェーデン独特のコーヒー文化「FIKA（フィーカ）」を両国の学生がお互いに相手の「ブレイクタイムカルチャー」を取り入れ、理解し合うことで、デザイナーとして共に成長しよう。

参加したのは日本側が同研究室の17人と本学と包括交流協定を結んでいる神田外語大生、長尾研の卒業生が勤務しているストックフォト企業「アマネ」のインターン生の総勢34人、ミッドスウェーデン大側がグラフィックデザインを学んでいる20人。

今年4月末から約1カ月のプロジェクトの進行中、双方のメンバーは一度も直に顔を合わせることもなく、オンラインのコミュニケーションツールのStack Overflowを使い、音声や活字、ビデオのチャットでお互いの考えや意思を通い合わせ、互いの文化を理解し合いながら、作品を作り上げた。

6月にはオンラインで両国を結び、ビデオチャットを使って双方の作品のプレゼンテーションを行った。また、10月には

駐日スウェーデン大使館で、来日したミッドスウェーデン大側のメンバーとお煎餅のパッケージデザイン。



参加したスウェーデンの学生たち



④流ちょうな英語でプレゼン

⑤作品を発表し合う

⑥シェアルームにお邪魔しました!

⑦「秋の袖団活性化ウィークエンド」と題したこのイベントは、創造工学部建築学科の鎌田、都市環境工学科の鎌田、佐藤（徹治）、デザイン科学科の倉斗、稲坂の5研究室の共催で、夏に続いて

2日間のイベントではこのほかデザイン科学科の研究室が考案・制作した移動式本棚「ぶっくら」の展示

「自分の得意分野」という質問を入れた。団地住民の皆さんの「人材バンク」を作り、学生との交流に役立てようという試みだ。これからも参加研究室がさまざまな試みを実行して、この活性化プロジェクトを成功させたい。

# 袖団「シェア室」公開

## 5研究室が「活性化ウィークエンド」

本学津田沼キャンパスと新習志野キャンパスの中間に広がる総戸数2990戸の袖ヶ浦団地。初住居から48年を経て住民の高齢化が進み、空室も目立つこの団地に本学の学生に住んでもらい、地域の活性化につなげようという「袖ヶ浦団地活性化プロジェクト」のイベントが11月12、13日、団

地内の空き店舗などを利用して開かれた。

今年2回目。プロジェクトは今年で3年目に入り、現在は男子学生3人と女子学生3人がそれぞれ3DKの1部屋を大家さんであるUR（都市再生機構）から借りてシェアハウスしている。

おり、その一環として同団地のシェアハウス斡旋も積極的に取り組んだ。



鎌田教授（後方左）と田島助教（同右）もエプロンをしてスタッフ作業

新習志野の学生寮は3年生になると退寮する規則のため、学生センターは退寮学生のためにその後の住まいの斡旋をして

「秋の袖団活性化ウィークエンド」と題したこのイベントは、創造工学部建築学科の田島、都市環境工学科の鎌田、佐藤（徹治）、デザイン科学科の倉斗、稲坂の5研究室の共催で、夏に続いて

# 水処理生物学会 本学で

## 村上研・亀田研が運営と講演に活躍

日本水処理生物学会の年次大会（第53回）は11月10、12日、本学津田沼校舎1、4、7号館を会場に、全国の水環境保全や上下水処理関係の研究

者約150人が参加して開かれ、シンポジウム・講演・研究発表などが行われた。写真。

千葉県での開催は初めて。運営側の大会会長の村上和仁・生命科学科教授、副事務局長を亀田豊・都市環境工学科准教授が務めた。

村上教授はシンポジウムで「生物指標による河川環境評価」個体からDNAまで」と題して講演。千葉県内には里地や里海（人間生活の影響下

に多様な生態系が維持されている沿海地域）のよくな2次自然がまだ多く、これを取り戻すアプローチが水環境や生態環境の修復につながる、と説いた。



一般講演では村上研と亀田研の学生17人が▽連沼海浜公園（山武市）ボート池の生態系構造解析

▽一宮川（九十九里南）の河川環境調査▽谷津干潟の水環境健全性評

船橋の三番瀬をテーマにした料理と地酒が用意された。最終日には本学か

ら比較的近い谷津干潟の見学会があった。

村上教授は、生命現象の源である「水」を対象とし、分子生物学・生態学の観点を取り入れた生態学的研究を進めている。水処理生物学会は昭和39（1964）年に発

足。日本学術会議の研究団体として産官学の研究者・技術者が多数参加している。

津田沼キャンパス4号館2階にある「千葉工大ひまわり保育園」（定員20人）の園児を対象に、文化会・天文研究部（部長・土佐和也さん）が電子情報工学科3年）が11月9日、保育園で星空教室を開き、園児・保護者と一緒にフラネタリウ

ムなどを楽しんだ。ひまわり保育園は事業所内保育所として本学と千葉銀行が共同で昨年3月に開設。生後57日小学校就学前の園児を対象に現在、16人が入園している。学内で見かける可愛い園児たちに、天文研究部員が「星に興味

# 園児と星空楽しむ

## ひまわり保育園 天文研究部

をもちてもらえないかな？」と企画。運営を預かる（株）ピンズ職員らも快く協力してくれた。

前半は、動物の星座を例に出し、塗り絵、貼り絵を交えてお勉強。後半はフラネタリウム上映と、戸外の望遠鏡で月の観察。夏休み中、御

宿町の子どもたちに公開講座を開いた経験が生きて、フラネタリウムは工夫をクレドアップ。ドームに恐る恐る入室した園児たちは、星空が広がる不思議な空間に一転「キラキラきれい」と喜びの声を上げた。

月の観察は、幼児園児たちには少し難しかったが、保護者たちに好評。星について、さまざまな質問が飛び交った。

土佐部長は「幼児が対象で難しい企画でしたが、保育園の方々のご理解で、よい経験させてもらいました。保護者から、また企画してほしいと声をかけられ、うれしかった。今後も継続していきたい」と話していた。



保護者と一緒に説明を聞いた後、塗り絵や貼りで星座をお勉強

# Look at 我らの成果

## イベント、模擬店… にぎやかに

### 第67回津田沼祭



ロボットコンテスト



ちびっこ手作り教室で



よさこいソーラン風神チームの演舞



ミニ電車の体験乗車



開会の言葉を述べる高木実行委員長  
木材を使った小物の模擬店



千葉工大の秋の祭り「第67回津田沼祭(大学祭)」が11月19〜21日(土日)の3日間、津田沼キャンパスで開かれた。テーマは「Look at」。祭りを見つめ直し、参加グループが試行錯誤した結果をしっかりと見てほしい……との想いだ。19日午前は雨。高木都史実行委員長(生命環境科学科3年)の開会宣言後、雨足は次第に緩んできた。6号館では各種クラブ・サークルが活動を発表。音楽系サークルの室内ライブ、芸術系クラブの作品展が顔をそろえた。

ロボットコンテスト、ちびっこ手作り教室は、今年も参加者で初日のメインイベントは「お笑いライブ」。ダイノジ、西村ヒロチョ、東邦大、日本大理工学部、生産工学部、合同企画は、今年もポスター掲示や駅前でチラシ配付をして、地域民への広報に努めた。

20日の目玉は「タレント・ライブ」。カフェ&レストラン「アフィリアグループ」の代表的キャストで構成された「アフィリア・サーガ」が登場。会場は多くのファンで埋まった。

模擬店は3日間で約90店が出店。定番のお好み

チームンチョーチュウ、相席スタートなどが登場した。トリを務めたのは「ピスタチオ」。奇妙な白目漫才で独特な笑いの空間を作り出し、会場は歓声に包まれた。

焼き、やきそば、うどん、豚汁、モツ煮などに加え、コーヒーマルシェやワインを扱う店舗も。味にうるさい市民からも「おいしい!」と好評だった。

雑貨店は工業大ならではの洗練されたデザインで人気。手に取り買い求める姿が多く見られた。期間中の来場者は延べ2万人を超えた。

高木実行委員長の話 全ての団体に「look at」と「お笑い」を掲げてもらい、メッセージ性の強い大学祭になったと思います。祭りを盛り上げられたのも参加団体、地域の人々、教職員、そして実行委員会メンバーたちのおかげと感謝しています。ありがとうございました。

### クラブの活動状況

文化会	期間	大会・発表会名
鉄道倶楽部	11/5、6、26	ひばり幼稚園、高州コミュニティセンター 出張運転、幕張車両センターフェスティバル2016 出張展示
将棋倶楽部	11/6	関東大学将棋連盟主催 秋季団体戦
総合工学研究会	11/6、15、23	理工展 ロボット大会、出前授業、ロボット操縦体験
天文研究部	11/8、9、19、20、29	天体観測、ひまわり保育園・天文研究部合同「星空教室」、観測会、天文関係のレクチャー
茶道部	11/12、13	津田塾茶会、金風茶会、霜月茶会、秋桜祭茶会、VERA祭茶会
ソフトメディア研究会	11/13	秋葉原UDX 2階 アキバ・スクエア
機械工学研究会	11/27	筑波耐久ロードレース コース2000
電子工学研究会	11/21	Mashuo Awards 2016 1次選考
フィッシャークラブ	11/27	全日本学生釣魚連盟 キス五目釣交流会

上記クラブのほか、多くのクラブが課外活動に励んでいます。定期的ないろいろなクラブの活動状況をお知らせしています。



吹奏楽部の演奏会

先日故郷の山に紅葉狩りに行ってきて。晩秋ということもあり、少し最盛期を外した感じがあったものの、今年も見事な紅葉を見ることができた。

紅葉の仕組みは、葉の色味によって多少違いますが、葉の中で細胞の変化が起こり、光合成する力が弱まる老化現象だ。日が弱まる

### 編集だより



1年の終わりである師走。文字通り走り回るような、何が何だかわからない程忙しい時期だ。

11月は常にイベントが続き、締めくくりにキャンパス見学DAY/クリスマスイルミネーションイベントと、通常の業務とは違った作業に翻弄さ

また、11月にまさかの雪?! 年が極まるだけでなく、寒さも極まり、切羽詰ったような気分になりつつも、蓋を開けてみればジタバタしていたのが越せそうなことに気づく。今年も感謝、感謝。こんなとき、相手の心も取りも軽くなるような言葉で感謝の気持ちを返せれば、と思う。凛と

した空気の中、暖かな陽の光に満ち足りた気持ちになるよな……

来年は四年。気づいてみれば私、トリ女(年女)。「年神様」のご加護を他の干支の人よりも沢山受けられるのでたい年らしい。イロ鳥ドリの幸せなど贅沢は言わない。大トリを自指して1年を駆け抜けられれば、それで。(笑)

入試広報課  
大橋 慶子

### 四季雑感



先日故郷の山に紅葉狩りに行ってきて。晩秋ということもあり、少し最盛期を外した感じがあったものの、今年も見事な紅葉を見ることができた。

紅葉の仕組みは、葉の色味によって多少違いますが、葉の中で細胞の変化が起こり、光合成する力が弱まる老化現象だ。日が弱まる

最近知人から聞いた話を紹介します。「自分が照時間が短くなる冬になると、樹木の根の水分を吸い上げる力が弱くなり、葉まで水分を送ると樹木全体の収支が合わなくなるため、葉は枝を離れて落葉する。落葉した葉はバクテリアなどに分解され樹木の養分になる。葉そのものは朽ちても樹木は厳しい冬を越える。何とも健気で、組織の末端としては己を棄つばに重ねてみてしまう。

冬は「冬の時代」など歓迎されない事柄の比喩になる日々。

次回の山行は、葉の代わりに樹木が霧水をまとうこともあるので、それを見に行くのも冬らしくて悪くない。

総務部付 シー・アイ  
ティ・サービス  
小林 英人

なることも多いが、冬ならではの、晴天の日が多くなり、葉がいたため見通しが利く。山中で鍋をつつくなど、他の季節にはない楽しみ方もある。あまり悲観的に捉えることもない。

### PPA



早いもので今年もあと数日です。今年もあんなに充実した1年でしたでしょうか。このような観点で1年を振り返ってみるのも良い時期だと思います。

最近知人から聞いた話を紹介します。「自分が

関心を持ったことか目には入ってこない」とのこと。知人は試しに銅像に関心を持つことになつてます。そうすると今まで意識すらなかった銅像のことが、気になつて気になつて仕様がなくなり、どこに銅像があるのか調べてまで出向くようになったそうです。

確かに自分の関心事は誰もが積極的に見に行くものではない。多くの人が普段道端にある銅像を見過ぎてしまっていることと思

ですが、関心を持つことで見えてくるものが全く違ってくるということだと思ひます。

来年がより充実した1年になるよう、皆さんも新しい関心事を探してみたいかがでしょうか。

私は学生のこと、先生方の研究のことに今まで以上に関心を持ち、これまでも見えていなかったことに目を向けていきたいと思ひています。

財務部  
長澤 宏昭